

# はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2013

文化庁平成25年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

# 黒塚

フォーラム KUROZUKA

2014年1月11日(土)  
—17:00~19:30—

東 雅夫

文芸評論家

土方 正志

出版社荒蝦夷代表

山内 麻衣子

金沢能楽美術館主任学芸員

(司会) 赤坂 憲雄

福島県立博物館館長  
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長

2014年1月12日(日)  
—13:30~16:00—

谷川 渥

美学者

平山 素子

舞踊家

(司会) 渡邊 晃一

福島大学教授

入場無料

会場: 福島駅前キッチンガーデンビル2F(福島市栄町10-3)



# 福島県二本松市 みちのく安達ヶ原鬼婆伝説についてのフォーラムを開催します

みちのく安達ヶ原の鬼婆伝説は謡曲「黒塚」として広く知られています。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2013の一環である福島発信ダンスプロジェクトでは、この伝説・伝承をテーマに、広く一般の参加者を交えながら、東北のアイデンティティについて考え、新たな芸術作品の創造を試みるフォーラムを開催します。

京の都から東北へ公家の娘の病を治すために赤子の生き肝を取りにきた乳母が鬼婆と化す物語は、地方と大都市圏の供給・消費の関係、中央から東北への眼差しを暗示しています。「黒塚」は東北・福島を精神性・風土を探究し、怪談・説話の特徴を探るうえで重要なテーマとなるでしょう。

震災以降、多くの文化団体・芸術家から心の復興にかかわる支援を受けてきた福島県で、新たに大学・博物館・文化施設が連携して、「黒塚」をテーマに福島・東北の再生のあり方を全国に発信する芸術活動を創造、育成していきたいと考えています。

安達ヶ原の鬼女伝説、謡曲「黒塚」を怪談文芸と演劇の中で位置づける第1部、第1部を浮けてこのテーマを現代の身体表現として編み直す可能性について考える第2部で構成する今回のフォーラムは、本プロジェクトの発進に位置づけられるものです。

## 日程詳細

### 1月11日(土)

東 雅夫・土方 正志・山内 麻衣子  
赤坂 憲雄(司会・進行)

- 17:00～17:30 あいさつ・登壇者紹介  
17:30～18:30 「みちのく怪談と安達ヶ原の鬼婆」  
東雅夫、土方正志、山内麻衣子  
18:40～19:30 トークセッション「演劇と伝説・怪談」

### 1月12日(日)

谷川 渥・平山 素子  
渡邊 晃一(司会・進行)

- 13:30～15:00 トークセッション福島発  
「ダンスプロジェクトの可能性」

## 連携事業／主催：會津風雅堂

### 平山素子ワークショップ

### 1月13日(月) 13:30～15:30

会場：會津風雅堂リハーサル室

参加料：1000円(一般)／500円(大学生以下)、先着30名  
申込・お問合せ先：會津風雅堂(tel.0242-29-0900)

#### 東 雅夫(ひがし まさお)

神奈川県出身。早稲田大学文学部卒。アンソロジスト、文芸評論家、怪談専門誌「幽」編集長。近年はアンソロジーの編集や、幻想文学・ホラーを中心とする批評、怪談研究などの分野で著述・講演活動を展開。

#### 土方 正志(ひじかた まさし)

北海道出身。東北学院大学文学部史学科卒業。出版社勤務を経て、フリー編集者・ライターとなる。2000年から2004年にかけて、『別冊東北学』の編集を担当。現在、雑誌『仙台学』や『叢書東北の声』シリーズを発行する出版社荒蝦夷代表取締役。

#### 山内 麻衣子(やまうち まいこ)

兵庫県出身。神戸女学院大学卒、関西学院大学大学院美学美術史学科修了。京都国立博物館学芸部を経て2008年より金沢能楽美術館主任学芸員。専門は能装束などの染織史。

#### 赤坂 憲雄(あかさか のりお)

東京都出身。東京大学文学部卒業。学習院大学教授・福島県立博物館館長。日本思想史・東北文化論。「東北学へ」他著書多数。2007年「岡本太郎の見た日本」でドゥマゴ文学賞、2008年同書で芸術選奨文部科学大臣賞(評論等部門受賞)。

#### 谷川 渥(たにがわ あつし)

1978年東京大学大学院博士課程修了。文学博士。美学者。マネエリスム・バロックからモダニズム・現代美術にいたる広域な分野の研究で知られる。「芸術の皮膚論」など、独自の視点による美学的地平を開拓。

#### 平山 素子(ひらやま もとこ)

愛知県出身。コンテンポラリーダンサー、振付家。1999年世界バレエ&モダンダンスコンクールにて、金メダルとニジンスキー賞をダブル受賞。新国立劇場で振付・出演した『シャコンヌ』『Butterfly』『Life Casting-型取られる生命-』(朝日舞台芸術賞)『春の祭典』(江口隆哉賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞)はすべて再演を果たすという成果をあげた。洗練されながら常に開拓心を失わない姿勢で、現在の日本のダンスシーンをリードする存在として注目度が高い。

#### 渡邊 晃一(わたなべ こういち)

北海道出身。絵画・現代美術を中心に活動。2001年より文部科学省在外派遣研究員としてアメリカ、イギリスに滞在。現代日本美術展、VOCA展、北海道立近代美術館、福島県立美術館、Chevigny(フランス)、Mouson(ドイツ)などの企画展。福島現代美術ビエンナーレ、会津美里町『風と土の芸術祭』等を企画監修。現在、福島大学人間発達文化学類教授。

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

お問い合わせ

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 福島県立博物館内 電話：0242-28-6067

FORUM  
KUROZUKA